3 韮山城跡の測量調査結果の概要

韮山城跡の地形測量調査の年度ごとの進捗状況を、韮山城跡測量図整備範囲と事業年度区分図に示す (第43図)。

測量調査は、平成 10 年度から始まり、平成 22 年度の緊急雇用対策事業による、埋蔵文化財包蔵地 範囲の最南端部の測量により一応の完了をみた。

全体の測量成果を、1/6,000 (第44図)、1/2,500 (付図1) の測量図として示す。

事業区分

韮山城跡の測量調査は、表 10・第 43 図のとおり、平成 10 年度は公益財団法人江川文庫が、平成 12 年度から平成 16 年度は韮山町教育委員会が、平成 17 年度から平成 22 年度は伊豆の国市教育委員会が実施した。測量調査は、事業年度ごとに断片的に行われ、測量調査した延べ面積は、749,668㎡である。

年度ごとの事業範囲は、平成10年度の江川家住宅現況平面図をもとに決定し、事業区ごとに合成編集を行いながら、概ね江川家住宅に隣接する地区から遠隔地に向け、事業展開した。

測量方法

韮山城跡の測量調査は、基準点測量と地形測量に分類される。基準点測量は、基本測量により既に設置された三角点及び公共測量により既に設置された公共基準点に基づき、作業範囲内に新設基準点を定めた。

地形測量は、土地の起伏を示す自然地形情報および人工構造物を示す地物の双方を表現した現況平面 図である。現況平面図は、縮尺 1/500 で作成し、測量方法はトータルステーションを用いた測量によ るものである。

測量調査結果

測量調査の目的は、韮山城跡の現況地形および地物を表現することである。現時点で測量調査成果を時系列ごとに区分して利用するには、絵図や修復改変履歴を示す史料の研究、城跡の埋蔵文化財発掘調査成果の構築等、関係資料の積み上げを計る必要がある。これらの研究は現在も進行しているため、時代ごとの様相を示すことはできない。そこで測量図を利用して、現在、韮山城周辺にどのような人工構造物が存在するのか第44図に示した。

韮山城跡周辺の山裾部には、コンクリート被覆、ブロック被覆がほぼ全周にわたり築かれている。急傾斜地には、モルタル吹き付け等による法面保護がされている。谷間部には、階段状の平坦面が確認できるが、土地の改変に関する詳細な情報は判読できない。

一方、森林に囲まれた城跡内部は、学校や神社への道以外、近年改変されたであろう構造物は見られない。韮山城跡の多くの土地は、近世以降、この地で代官職を世襲する江川家の私有地となり、近代以降も引き継がれた。このことは、土地の改変が抑制されたという意味合いから、韮山城廃城時の様相を現在に伝える好条件となったといえる。

表 10 韮山城跡測量図作成事業

年 度	事 業 名	期間	面積(m²)	コンタ (m)	基準点	縮尺
平成 10 年度	重要文化財江川家住宅現況平面測量	_	17,726	1.0	_	1/200
平成 12 年度	韮山城跡測量縄張図作成業務	2000.11.1 ~ 2001.3.23	193,234	0.2	87 点	1/500
平成 13 年度	韮山城測量調査・縄張図作成業務	2001. 5.15 ~ 2002. 2.28	66,839	0.2	20 点	1/500
平成 14 年度	史跡整備事業韮山城跡測量調査	2002.6.12 ~ 2003. 2.28	40,756	0.2	21 点	1/500
平成 15 年度	韮山城跡範囲確認調查事業 韮山城測量調查	2003. 6.10 ~ 2004. 2.27	46,026	0.2	24 点	1/500
平成 16 年度	韮山城跡範囲確認調查事業 韮山城測量調查業務	2004. 6.14 ~ 2004.12.17	39,804	0.2	24 点	1/500
平成 17 年度	韮山城跡範囲確認調查事業 韮山城跡測量調查業務	2005. 8.4 ~ 2006. 2.28	45,893	0.2	22 点	1/500
平成 19 年度	韮山城跡範囲確認調查事業 韮山城跡測量調查業務	2007. 7.20 ~ 2008. 3.10	95,388	0.2	51 点	1/500
平成 20 年度	韮山城跡範囲確認調查事業 韮山城跡測量調查業務	2008. 7.24 ~ 2009. 2.27	22,209	0.2	11 点	1/500
平成 22 年度	韮山城現状調査及び基盤整備事業	2010. 1.27 ~ 2011. 9.30	181,793	0.2	85 点	1/500



